

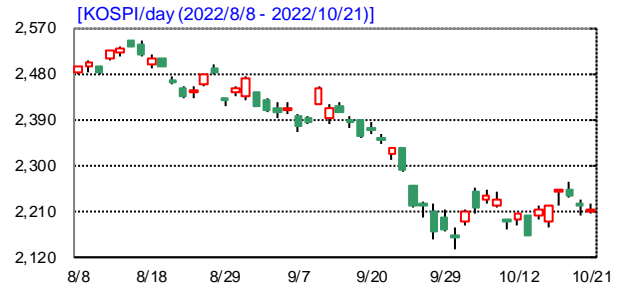


【韓国】 総合指数は週間で0.03%高と小反発、今週は方向感に乏しい値動きか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.03%高と小幅に反発。週半ばから下げに転じ、前半の上昇分をほぼ打ち消した。週明け17日は続伸。前週末の米株安に追随して安く始まったが、アジア時間17日の米株価指数先物の上昇を受けた買いが入った。18日も上昇し、終値は9月23日以来の高値を付けた。19日は米ドル高と米国債利回りの上昇が重荷となり、4営業日ぶりに反落。20日も前日の米株安を受けて続落した。ただ、中国で新型コロナウイルス関連の制限措置が緩和される可能性があると伝わると、下げ幅を縮小した。21日も米株安の流れで3日続落。米FRBが積極的な金融引き締めを続けるとの観測が強まった。今週は方向感に乏しい値動きか。中国の景気刺激策や米国の長期金利、米ドル相場をにらんだ神経質な展開になりそうだ。

▼指数チャート

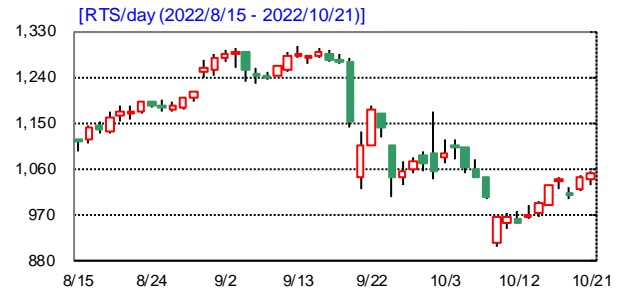


【ロシア】 RTS 指数は週間で6.0%高と大幅に5週ぶり反発、今週も堅調か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で6.0%高と大幅に5週ぶりに反発。海外株高や地政学リスクの後退が追い風となった。RTS 指数は週明け17日に前週末比3.8%高。海外株高や地政学リスクの後退が好感される中、商品高を受けた資源株の上昇が指数をけん引した。指数は18日も1.2%高と続伸したが、19日はプーチン大統領が招集した安全保障会議への警戒感で2.8%安と反落。ただ、海外株高や商品相場の上昇を背景に20日に3.1%高と反発すると、21日は0.9%高と続伸した。個別銘柄では産金のポリュスが22.1%、鉄鋼のセヴェルスターリが18.9%、ノボリペツク製鉄所が14.4%上昇したほか、ズベルバンク・オブ・ロシアが10.8%高、ルクオイルが7.1%高、ガスプロムが4.6%高と大幅高となった。今週は引き続き堅調か。

▼指数チャート

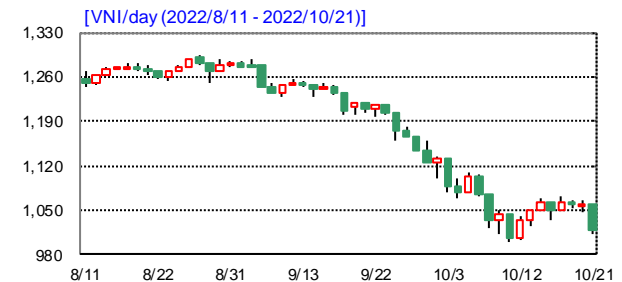


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で4.0%安と大幅に反落、今週は引き続き軟調か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で4.0%安と大幅に反落。通貨安を背景に資金流出懸念が強まった。週明け17日のVN 指数は1.0%安と4営業日ぶりに反落。通貨ベトナム・ドン下落を受けて資金流出への警戒感が広がった。指数は18日に1.1%高と反発したものの、18-19日は小幅に続落。出来高は2年ぶりの低水準に落ち込んだ。21日はドン安が進んだことで先安観が強まり、出来高を伴って幅広い銘柄が下落。指数は3.6%安と大幅に3日続落した。ベトナム・ドンは対米ドルで2.9%安となり、年初来下落率は8.7%。個別では食品加工のベトナム・デイリー・プロダクツが4.1%高となった一方、鉄鋼のホア・ファット・グループが13.1%、金融のテクコムバンクが10.9%、不動産のカンディエン不動産が10.0%下落した。今週も軟調か。

▼指数チャート



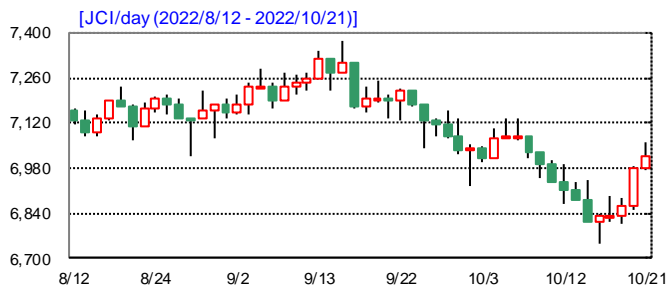


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 3.0%高、中央銀行が3会合連続の利上げを決定

ジャカルタ総合指数は週間で3.0%高と4週ぶりに反発。前週までの反動で買い戻され、週末まで5日続伸した。週初の17日は、前週末のNYダウが急反落したものの影響は小さく、7営業日ぶりに反発。その後もじりじりと上値を広げると、20日は中央銀行が政策金利を3会合連続で引き上げ、4.75%に設定した効果で銀行株が買われたほか、国内経済の見通しについて楽観的な見方が示されたことも買い材料となり、指数は前日比1.8%上昇した。21日も買い優勢の展開が続き、終値で10営業日ぶりに節目の7000ポイント台を回復して引けている。今週は27日発表の7-9月期の米GDP速報値が意識されそうだ。

▼指数チャート

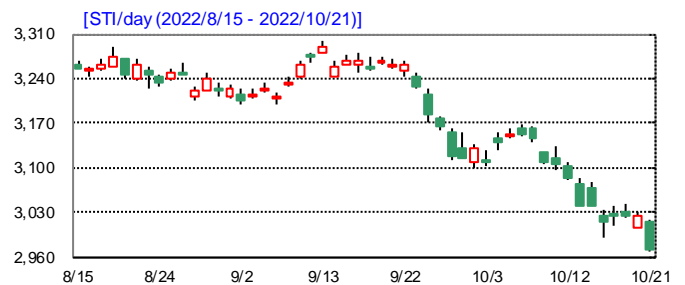


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 2.3%安、週末の終値は3000ポイント割れ

スレーツタイムズ指数は週間で2.3%安と続落。軟調な値動きが続き、週末に終値で節目の3000ポイントを割り込んだ。週初の17日は、9月の非石油地場輸出が前年同月比3.1%増と市場予想から下振れた影響などで、指数は8営業日続落。18日は英国の財政政策の大幅な見直しが買い材料視されて反発したが、19日は中国株の下落に連動して小幅に反落した。20日は前日からほぼ横ばいで推移した後、21日は景気後退への懸念が高まったことが指数を押し下げ、前日から1.7%下落している。今週は25日に9月のCPI、26日に鉱工業生産が発表される予定。24日はディーパバリ（光の祭典）のため休場となる。

▼指数チャート

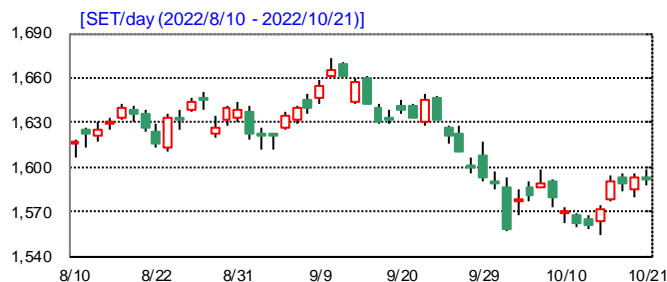


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET指数は 2.0%高、今週は9月の経済指標に期待

SET指数は週間で2.0%高と4週ぶりに反発。7-9月期の銀行決算発表が集中する中、おおむね堅調に推移した。連休明けの17日は、前週末に発表されたディスコ・フィナンシャル・グループの決算が国内経済の回復を受けて好調だったことが買い材料となり、指数は5営業日ぶりに反発。18日は世界的な株高に連動して前日比1.2%高と続伸したが、19日に小幅反落すると、その後も小動きが続いた。今週は25日に9月の貿易統計（通関ベース）、27日に鉱工業生産が発表される予定。前週末のNYダウが大幅反落したことは株式相場の追い風か。24日はチュラロンコーン大王記念日の振替休日のため休場となる。

▼指数チャート

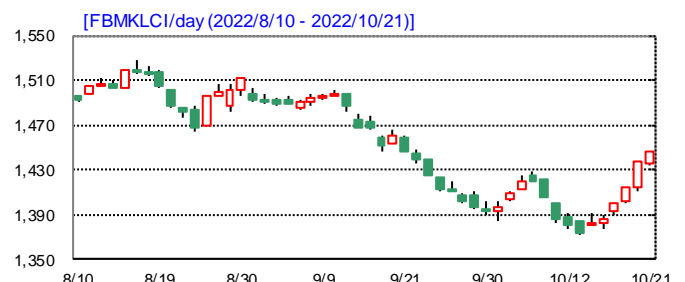


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 4.6%高、週末に終値で1カ月ぶりの高値を更新

クアラルンプール総合指数は週間で4.6%高と反発。週末まで6営業日続伸と好調だった。週初の17日に続伸すると、18日はアジアタ・グループとIOIコープが買われ、指数は前日比1.0%高と終値で6日ぶりに節目の1400ポイント台を回復。19日は9月の貿易収支が市場予想を大幅に上回った効果などで買い優勢となった後、20日はペトロナス・ケミカルズ・グループとパブリック銀行が指数上昇をけん引し、前日比1.6%高と上値を広げた。21日は9月のCPI上昇率が前年同月比4.5%と高止まりしたものの影響は小さく、終値で1カ月ぶりの高値を更新して引けている。今週は24日がディーパバリのため休場。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。